

GT40 α << Q & A >>

Q1. 機器を認識しない。

A1-1. 接続が不完全。

(取扱説明書の「接続する」を参照して、USBケーブルを通じて機器をパソコンに確実に接続してください。)

A1-2. 接続しているUSBハブに問題がある。

(USBハブを経由して接続している場合は、USBハブが動作しているかどうかをUSBハブの取扱説明書にしたがって確認してください。)

A1-3. デバイスの一部を認識しない。

(USBケーブルを抜き、10秒ほど待って再接続してみてください。システムが不安定になっている場合は再起動を試してください。)

Q2. 各スイッチを切り替えた時にパソコンが不安定になる。

A2. 音声出力を行ったまま切り替えを行った。

(OSの仕様上、音声出力を行ったまま切り替えを行うと、OSが不安定になる可能性があります。各スイッチを切り替える時は、音声出力を停止してください。)

Q3. 音声がでない。

A3-1. ミュートされている。

(パソコンのボリュームコントロールを開き、ミュートのチェックを外します。)

A3-2. 出力レベルが小さい。

(パソコンのボリュームコントロールを開き、ボリュームをすべて最大値に設定します。)

A3-3. 他の音声出力デバイスが使用されている。

(コントロールパネルから「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」を開き、音の再生で「既定のデバイス(もしくは「優先するデバイス」)」として「FURUTECH ADL GT40 α(もしくは「USBオーディオデバイス」)」を選択してください。)

A3-4. 外部アンプまたはスピーカーに問題がある。

(LINE OUT端子から外部アンプやスピーカーに確実に接続されているかどうか確認してください。外部機器に問題ない場合はケーブルをご確認ください。)

A3-5. ASIO設定に問題がある。

(パソコンのデスクトップにあるADL ASIOツールから「FURUTECH ADL GT40 α」を選択し「Apply」をクリックして、詳細設定をします。ASIOのバッファサイズは15ミリ秒の設定を推奨します。)

Q4. PC内蔵スピーカーから音声がでない。

A4. USBオーディオデバイスが優先されている。

(USBオーディオデバイスが優先されているため、内蔵スピーカーからは音声が出力されません。内蔵スピーカーから一時的に音声を出力させるためには、本機からUSBケーブルを抜いてください。内蔵スピーカーのご使用後はUSBケーブルを再度接続してください。)

Q5. ヘッドフォンから音が聞こえない。

A5. 本体のメインボリュームが下がっている。

(本体のメインボリューム調整つまみで音量を調整できます。最適な音量になるようつまみを調整してください。)

※メインボリュームはヘッドフォン音量とリアのOutput端子の出力レベルを同時に調整します。

Q6. 左右の音量バランスがかたよっている。

A6-1. バランスが中央に設定されていない。

(PCのボリュームコントロールを開き、バランスを調整してください。)

A6-2. 外部アンプまたはスピーカーに問題がある。

(接続している外部アンプやスピーカーのバランスを確認してください。)

Q7. CD-ROMドライブからの音声が出力されない。

A7. CD-ROMドライブがデジタル音声出力に対応していない。

(システムがCD-ROMドライブからのデジタル音声ストリームに対応していない場合、USB経由ではCDROMドライブから出力された音声は出力されません。このような場合は、CD-ROMドライブの音声出力(ヘッドホン出力等)をライン入力に接続し、音量を適当な値に調節してください。)

Q8. ライン音声が入力できない。

A8-1. ライン入力の接続が不完全。

(外部からライン入力(Phono/Line Input)に確実に接続してください。外部機器に問題がない場合はケーブルをご確認ください。)

A8-2. 外部機器から音声が出力されていない。

(外部機器から音声が出力されているかどうか確認してください。)

A8-3. フロントパネルの入力切り替えスイッチが青色に点灯している。

(入力切り替えスイッチが飛び出した状態が青色点灯の場合はUSBで接続されたPCからの音源が選択されます。このスイッチが押された状態ではANALOG(PHONO/LINE)ソースが選択され、赤色に点灯します。)

A8-4. リアパネルの入力切り換えスイッチPhono(MC・MM)又はLineの設定違い。

(オーディオ機器のアナログ出力に対応して切り替えてください。)

Q9. 録音できない。

A9-1. 他の音声入力デバイスが使用されている。

(コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」を開き「録音」の「既定のデバイス」から「USBオーディオデバイス」を選択してください。それでも録音できない時は「既定のデバイスのみを使用する」のチェックボックスにチェックを入れてください。)

A9-2. 外部機器との接続に問題がある。

(外部機器と確実に接続されているかどうかお確かめください。外部機器に問題がない場合は、ケーブルを確かめてください。)

A9-3. 利用している録音ソフト側がGT40 αを認識していない可能性がある。

(録音ソフトの音声入力がGT40 αを認識しているか確認してください。録音ソフトはAudacityを推奨します。)

A9-4. MacのMIDI設定の入出力が24bit/192kHzとなっていないか確認してください。

(録音が終わるまで、音声出力フォーマットを16bitにしてください。録音した24bit/192kHzファイルを再生する際、出力フォーマットを24bit、入力フォーマットを16bitに戻してみてください。)

A9-5. PCの録音設定の入出力が使用されるビットレートとサンプリングレートは同じモードとなっていないか確認してください。

(ビットレートとサンプリングレートは24ビット、192000Hz(スタジオの音質)設定を推奨します。)

Q-10. 音が途切れる。

A10-1. 音声出力、入力中に負荷のかかる作業を行っている。

(特に録音をされる場合には、CPUに負担のかかる作業は控えてください。)

A10-2. 音声出力、入力中に他のUSB機器を抜き差しした。

(音声の再生・録音中に他のUSB機器を抜き差しすると、音声が途切れることがあります。)

A10-3. CPUの処理が再生や録音に追いついていない。

(CPUが推奨スペックを満たしていない場合は、期待した性能を発揮できない場合があります。また、CPUが推奨スペックを満たしている場合でもCPUが非常に高負荷の状態である場合には音が途切れることがあります。この場合は、他のアプリケーションをすべて終了させてください。また、録音の際の再設定を試みてください。)

A10-4. Windows PCの場合、他のドライバーが幾つも混在している。

(ドライバーが幾つも混在していると、再生に影響を与える場合があります。必要のないドライバーはアンインストールしてください。)

Q11. 雑音が多い。

A11-1. レコードを使用している際にアンテナやテレビなど強い磁気を帯びたものの近くにGT40 αを置いている。

(テレビなどから十分に離して置いてください。)

A11-2. パソコン側の電源又はAC-DCアダプターが安定していない。

(可能性としてパソコン側の電源又はAC-DCアダプターが十分に確保されていないため、60Hzか120Hz、または両方のノイズが発生している。)

A11-3. 各入出力端子の接続が不完全。

(GT40 αと接続しているすべての端子、又は機器側の接続状況を確認してください。)

A11-4. Windowsのサウンド設定、MacのMIDI設定の入出力が、使用されるビットレートとサンプリングレート共に同じモードとなっていないか確認してください。

A11-5. レコードを使用している際にノイズが発生している場合

(一度フォノケーブルをGT40 αから外して再度接続してみてください。)

(ターンテーブルをGT40 αに接続する際、ターンテーブルの電源、GT40 αの電源、パソコンの電源を同じ電源タップに接続した方がよい。この接続により、ターンテーブル使用の際のノイズがかなり軽減される。違う電源タップ等を介すと、ノイズが大きくなることがある。また、フォノ接続(RCA 接続・アース)部が接続不良の場合がある。一度取り外し再度接続で解消する場合がある。)

A11-6. 外部設備を接続するときにリアパネルのアース端子にアースを接続して解消する場合がある。

★製品の故障により、正常に録音ができなかったことによって生じた損害(CDのレンタル料等)については保証対象になりませんので、大事な録音をされるときには、あらかじめ正しく録音できることを確認の上、録音を行ってください。

Q12. GT40 αは RCA 入力端子を持ったアクティブスピーカーと接続することはできますか？

A12. 可能です。接続する際、必ず再生前にGT40 αのボリュームを最大にし、アクティブスピーカーのボリュームを最小にしてください。

Q13. GT40 αはプリアンプとして使えますか？パワーアンプに直接つなぐことは可能ですか？

A13. プリアンプとして使用することは可能なため、プリアンプに直接することができます。ただし、レコード等の音源の録音時のモニターチェックなどの利便性においてはパワーアンプにダイレクトに接続するのではなくプリアンプを介したほうがよい場合もございます。ボリュームはヘッドフォン出力とRCAライン出力を同時に調整します。

Q14. GT40は64bit OSにも対応しますか？

A14. 32bit、64bit共に対応しています。

Q15. GT40はWASAPI対応しますか？

A15. WASAPI は対応しています。

一般的に Foobar2000 などは対応しているソフトとして知られております。

Q16. リニア PCM レコーダーからの USB 接続には対応しているのか？

A16. DAC はパソコンとの USB 接続のみとなります。使い方としては、リニア PCM レコーダーで録音された音源をメモリースティック等でパソコンにデータを転送し、パソコン上で音楽再生ソフトを使って音源を再生します。

その時に DAC とパソコンを USB 接続し、DAC をお持ちのプリアンプとつないで音をお楽しみ頂く方法があります。

Q17. 取扱説明書ではWindow XP/Vistaについて表記がありませんが、対応していますか？

A17. Windows XPは対応しております。設定等の操作方法は、Windows7とほぼ同じとなっております。

※Windows Vistaについては、環境などにもよりますが、対応出来ない可能性が現在とこと高いです。

Q18. LPLレコードをデジタル録音したいのですが、新たにオーディオドライバーが必要ですか？

A18. LPLレコードをデジタル録音する場合、Macとの接続の場合、ドライバーは必要ありません。

Windowsをお使いの場合、専用ドライバーが必要となります。GT40 αの製品ページ又はFURUTECHのTOPページよりダウンロードください。録音ソフトは別途必要となります。

当社でテスト時に使用しておりましたソフトは、"AUDACITY"というフリーソフトになります。

フリーソフトですので、下記 URL よりダウンロードしてお使いください。

<http://audacity.sourceforge.net/?lang=ja>

使用方法は Audacity のページをご参照ください。

Q19. AC/DC スwitchングアダプターは以前の GT40 USB DAC のものは使用できますか？

A19. 使用出来ません。GT40 αは DC15V/0.8A/12W の AC/DC スwitchングアダプターの規格のみ使用できます。以前の GT40 USB DAC 用アダプターは AC/AC 変換の電圧が 9V のため使用できません。

Q20. GT40 αがプリアンプと接続している場合、ヘッドフォン音声出力はプリアンプで調整できますか？ヘッドフォンはプリアンプに接続して聞くこともできますか？

A20. いいえ、ヘッドフォンの音声出力ボリュームは GT40 αのボリュームでのみ調整可能です。そのため、ヘッドフォンジャックは GT40 αに差し込んでください。

Q21. ヘッドフォンジャックを GT40 αに接続した場合、音声は同時にスピーカーから流れますか？

A21. いいえ流れません。この場合、ヘッドフォン出力からのみ音声が行くようになります。

Q22. Mac OS X Mavericks を使用していて Yosemite へアップグレードしたいが、引き続き GT40 αを使用できるか？

A22. 引き続き Yosemite にも対応しています。アップグレード後、もし環境設定画面に GT40 αが表示しないか、Mac が認識していない場合、一度 Mac を再起動してみてください。

Q23.前機のGT40 USB DACを持っています。GT40 αのドライバーをインストールすると24bit/192kHzの音源を再生することは出来ますか？

A23. 出来ません。ドライバーはGT40 α専用のものであり、GT40 USB DACをアップグレードするためのものではありません。

Q24. USBを接続したときにノイズが発生し、再生時に動作が不安定になる。

A24-1. ノートパソコンのスイッチング電源アダプターがノイズの発生源になることがある。アダプターを交換するとノイズがなくなることがある。

A24-2. PCとGT40 αの間にセルフパワーUSBハブを接続すると動作が安定する場合がある。

Q25. 再生時に動作が不安定になる。

A25. PC又はノートパソコンとGT40 αの間にセルフパワーUSBハブを接続すると動作が安定する場合がある。

Q26. 再生時、リアパネルの切り替えスイッチを切り替えても大丈夫ですか？

A26. リアパネルのPHONO/LINE入力切り替えは、ライン入力再生中には行わないでください。特にLINEからPHONOへの切り替えはやめてください。

Q27. どんな録音ソフトにも対応していますか？

A27. アナログ録音はあくまでも使用する録音ソフトに依存します。GT40 αには録音ソフトは付属しておりません。フリーダウンロード等のソフト(推奨録音ソフト:Audacity)を使用していただくことになります。

当社内での検証はフリーダウンロードの(Audacity)で行っておりますが、これ以外の録音ソフトで不具合については、当社で検証できない場合があることを予めご了承ください。その場合、お使いの録音ソフト制作窓口にお問合せください。

Q28. マイクによる楽器などの録音は可能でしょうか？

A28. マイクからライン出力端子がある機材を通して頂くことで、GT40 αのライン入力端子と接続することが可能です。

Q29. ライン入力からライン出力へアナログ信号が流れる際、DACを通りますか？

A29. DACを通りません。ライン入力した音源を再生する場合の信号の流れは以下の通り。

RCAライン入力 ⇒ オペアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器 ⇒ オペアンプ(回路2) ⇒ RCAライン出力

Q30. MCカートリッジの出力レベルが0.4mV (1kHz、4cm/sec.) ですが使用できますか？

A30. GT40 αのライン入力レベルはM=0.4mV、MM=4mVですので、問題ありません。

Q31. 以前のGT40 USB DACに比べ、ハイレゾ音源の対応フォーマットはどの程度増えた？

A31. GT40 αは以前のGT40 USB DACに比べ、88.2kHz・176.4kHz・192kHzが新たに再生可能となりました。

Q32. ASIO対応ですか？

A32. GT40 αは ASIO 対応です。GT40 α専用ドライバーをインストール後、各再生ソフト上の ASIO 設定を行ってください。

Q33. USBデータ転送は非同期 (asynchronous) ですか？

A33. 非同期(アシンクロナス)です。

Q34. USBデータ転送速度は？

A34. GT40 αは、Full speed(12Mbit/s)ではなくUSB2.0 High speed(480Mbit/s)となっております。

参考)GT40 USB DACは、Full speed(12Mbit/s)。

Q35. デジタル音源を録音することは出来ますか？

A35. アナログ音源のみの録音が可能となります。

Q36. 使用する以前に、他機種DAC用ドライバーをパソコンにインストールしている場合、そのドライバーをアンインストールする必要はありますか？

A36. 製品のID識別コードが違いため、GT40 αを使用する場合、他のドライバーをアンインストールする必要はありません。但し、GT40 αと同じチップを使っている機種があり、パソコン側で両方のチップを認識してしまう場合があります。その場合、パソコンの動作が不安定になり、ドライバーを認識しない場合があります。

Q37. 録音時、フロントパネルのクリッピングナルが随時点灯している。

A37. アナログ入力信号が大きいため、録音される信号が歪まないように入力信号を減衰させる必要があります。フロントパネルの Clip Signal ライトが点灯した場合、リアパネルの RecAtt/dB(録音レベル減衰切り替え)トグルスイッチで入力信号を減衰してください。)通常時 6dB 数値を推奨します。

点灯又は点滅の場合はリアパネルのRecAtt/dB(録音レベル減衰切り替え)トグルスイッチを6dBから12dBへ調整して下さい。もし、アナログ入力信号が弱い、録音レベルを上げたい場合、トグルスイッチを6dBから0dBへ調整して下さい。

Q38. 録音時、再生と録音の設定はどうすればよいですか？

A38. 録音時に再生と録音のビットレートとサンプリングレート設定は必ず同じモードを設定して下さい。

Q39. 録音レベル「WAVEミュート」はどうすればよいですか？

A39. 「ライン」をクリックし「レベル」タブを選択します。「ライン」の録音レベルを音源によって約 50～90 パーセントの間に調整し、「WAVE ミュート」は約 5 パーセント(-19dB) の設定を推奨します。

*録音される信号を歪ませないために「ライン」と「WAVE ミュート」のレベルは音源によって調整してください。

Q40. アダプターなしでパソコンとのUSB接続でも使うことが出来るのですか？

A40. いいえ、できません。GT40 αの電源ですが、USBバスパワーは相互干渉を回避するためにUSBチップへの給電のみ独立給電しております。ご使用の際には必ず15Vスイッチングアダプターが必要になります。

Q41. ADL A1もGT40 αのドライバーを使うことが出来るのですか？

A41. はい、使えます。GT40 αのドライバーはADL A1に対応しています。

両方の機器をお持ちの場合、以前のA1とPCを接続し、ドライバーをアンインストールして、「FURUTECH ADL GT40 α」だけをパソコン上に残しておけば、A1とGT40 α両方使用できます。

※ GT40αのドライバーをインストール又はアンインストールする時、GT40 αとパソコンを必ずしも接続しておく必要はありません。

Q42. ライン入力からライン出力へアナログ信号が流れる際、DACを通りますか？

A42. DACを通りません。ライン入力した音源を再生する場合の信号の流れは以下の通りです。

RCAライン入力 ⇒ オペアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器 ⇒ オペアンプ(回路2) ⇒ RCAライン出力

また各入出力の詳細は以下の通り。

< RCA Input ⇒ RCA Output >

RCA ライン入力 ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器(VR) ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路2) ⇒ RCAライン出力

< RCA Input ⇒ Headphone Out >

RCA ライン入力 ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器(VR) ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路2) ⇒ MAX9722 ヘッドフォンアンプ ⇒ ヘッドフォン出力

< RCA Phono Input ⇒ RCA Output >

RCA Phono入力 ⇒ NJM2068 OPアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器(VR) ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路2) ⇒ RCAライン出力

< RCA Phono Input ⇒ Headphone Out >

RCA Phono入力 ⇒ NJM2068 OPアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器(VR) ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路2) ⇒ MAX9722 ヘッドフォンアンプ ⇒ ヘッドフォン出力

< USB Input ⇒ RCA Output >

PC Playback ⇒ USB入力 ⇒ VIA VT-1736 ⇒ CS-4270/DAC ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器(VR) ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路2) ⇒ RCAライン出力

< USB Input ⇒ Headphone Out >

PC Playback ⇒ USB入力 ⇒ VIA VT-1736 ⇒ CS-4270/DAC ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路1) ⇒ 可変抵抗器(VR) ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路2) ⇒ MAX9722 Phoneアンプ ⇒ ヘッドフォン出力

< RCA Input ⇒ USB Out for recording >

RCA ライン入力 ⇒ NJM5532 OPアンプ(回路1) ⇒ Clip Detection ⇒ CS-4270/ADC ⇒ VIA VT-1736 ⇒ USB出力 ⇒ PC Recording

< RCA Phono Input ⇒ USB Out for recording >

RCA Phono入力 ⇒ NJM2068 OPアンプ(回路1) ⇒ Clip Detection ⇒ CS-4270/ADC ⇒ VIA VT-1736 ⇒ USB出力 ⇒ PC Recording

Q43. MacのQuicktimeで音源を録音出来ますか？またその録音した音源を再生したいのですが。

A43. アナログ音源の録音は可能です。録音フォーマットは16bit/44.1kHzのAACで、iTunesでも再生可能です。

録音した音源をWindowsで再生する場合、Windows Media Player 12(Windows 7以降に標準搭載)であればそのまま再生出来ます。Windows Media Player 11以前の場合は、コーデックを新たに追加すれば再生できるようになります。

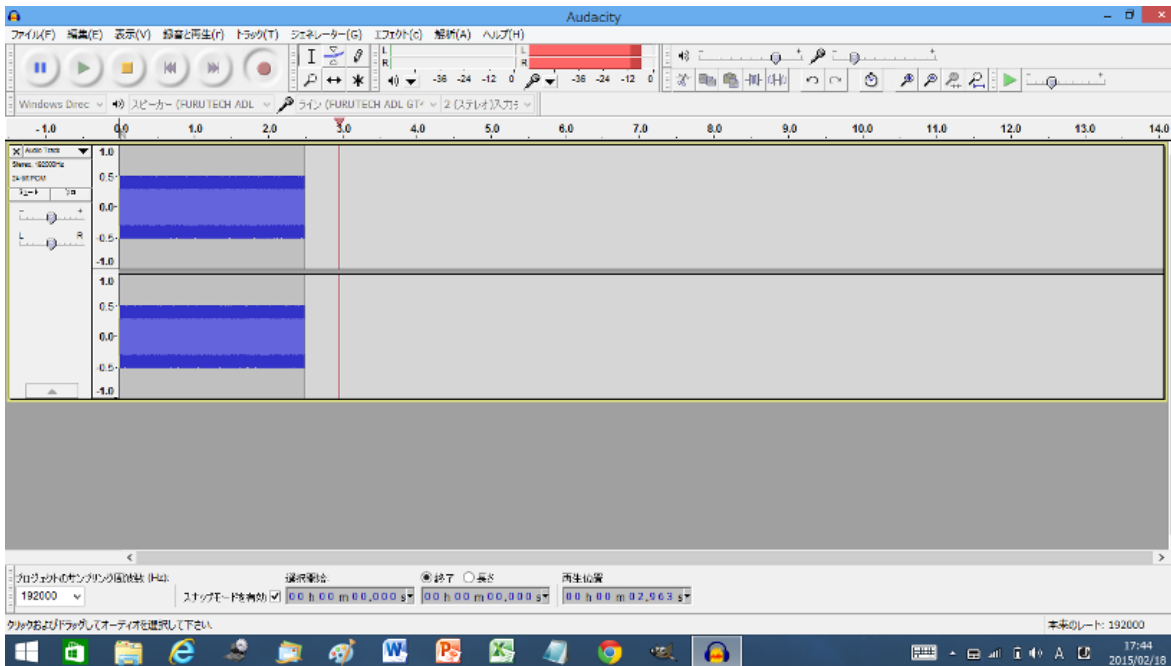
Q44. iPhoneからの音源をカメラコネクションキット経由で再生したいが出来ますか？

A44. 可能です。GT40 αのフロントパネルをUSBスイッチに切り替え、カメラコネクションキットとUSBケーブルを接続するとiPhoneの音源を再生することができます。

Q45. Audacityで録音しようとする、ノイズしか鳴っておらず、録音時の波形も一定。再生させた音源はノイズしか聴こえない(Windowsの現象)。

A45. 一旦、Audacityを閉じて、PCを再起動すると正常に戻ることがあります。

また、スピーカーの認識を「GT40」ではなく、「プライマル」に切り替えるとノイズが聞こえなくなる場合があります。



Q46. OSはLinuxを使っています。GT40 αは使用出来ますか？

A46. 使用可能です。ドライバーのインストールも必要ありません。

Q47. Windows 10へアップデートした後、今まで通り使用出来ますか？

A47. 使用可能です。ただし、パソコンや仕様されているバージョンによって、パソコン側でドライバーの更新が必要になってくる場合がございます。詳しい手順は、別紙の「ドライバー更新手順」を参照ください。

Q48. MAC 最新OS.に対応していますか？

A48. 対応しております。

Q49. Mac Audacityを2.1.1へアップデート後利用すると、プツプツとノイズがあり、うねる様な音になる。

A49. Audacityの録音24bit/192kHz時に限って、Audacityで録音した音をプレイバックするとたまに音がおかしい。

録音中の音、またその他の再生ソフトでの再生音は全く問題ない。

⇒ Audacity2.1.1との互換性悪い可能性あり。

Ver. 2.1.1 をVer. 1.3.14へダウングレードすると症状がおさまる可能性があります。

Q50. FoobarのASIOコンポーネントをインストールしたが、GT40 αがASIOデバイスとして認識されない。

A50. Preference/Output/ASIO項目で”use 64bit ASIO drivers”にチェックが入っている場合、解除して再度読み込んでください。また、Component項目に表示されているASIO Support foo_out_asioをクリックし、再度更新してみてください。

Q51. GT40 αのドライバーをインストール開始後、”Enumerate filter failed”のエラー表示が出て先に進めない。

A51. USBデバイスの非認識というエラー表示です。再度USBケーブルを挿し直してください。

コントロールパネルのサウンド設定項目にGT40 αが表示されていない場合、USBケーブルに何かしらの問題があります。

表示されている場合は、一度アンインストール後、再度インストールしなおしてください。

Q52. GT40 αのインストール途中で、“install driver fail, error code: 0x0,0x0”というエラーメッセージが表示される。

A52. 一旦表示画面の「OK」をクリックし、ステータスの削除表示画面が出てきたら、「削除」せず「次へ」のみクリックください。詳細は、別紙の「ドライバー更新手順」5ページを参照ください。

Q53. Line/Phono入力のアナログ音声は、PCのオーディオミキサーを経由せず出力可能ですか？

A53. USB 録音の実行状態やPCの起動状態にも関係なくLine/Phono入力はLine出力可能です。

Q54. Windows 10 Creators Update又はWindows 10 Anniversary Updateにアップデートした後、USBが認識しない。

A54. パソコン上のドライバー更新をお願いいたします。更新作業を行って頂くとパソコンがGT40 αのドライバーを認識します。ドライバー更新手順はhttp://www.furutech.com/images/2018/03/GT40_α-Driver更新手順ver.4.pdf を参照ください。

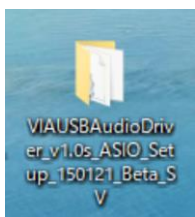
10 Windows 10 Creators Update (バージョン1703) 又はWindows 10 Anniversary Update (バージョン1607) へのアップデート後は、デスクトップ上に「ADL ASIO」ショートカットキーは出ずASIOは非対応となります。予めご了承ください。

Q55. レコード音源(カートリッジはMMかMCどちらかを使用予定)をハイレゾ音源のデジタル化希望。カートリッジの出力を上げる昇圧トランスを間に挟んで使用する必要がありますか？

A55. GT40 α内蔵のフォノイコライザーですが、MC対応となっておりますので、昇圧トランスをはさまず、そのままご使用になれます。

Q56. Anniversary 1803でのドライバー更新において、デバイスマネージャーの不明なデバイスの更新の実行の際エラーが出た。そのため、デスクトップ上のGT40 αの中のフォルダ「viausb-Driver-WinXP64」をクリック時、「OK」「キャンセル」選択表示されない。

A56. 解凍されたフォルダはデスクトップにこのように表示。フォルダ内の「viausb」→「Driver」→「WinXP64」を指定すると「OK」「キャンセル」を選べる画面になります。指定の時「サブフォルダも検索する」にチェックが必要。「OK」をクリックすると、「次へ」「キャンセル」が選べる画面になります。「次へ」をクリックするとドライバーが更新され、デバイスマネージャーの「不明なデバイス」がサウンド内に「FURUTECH ADL GT40 α」と表示され使用できるようになります。



Q57. PHONO入力でMCカートリッジ使用時のS/Nが今一つ改善できないかと思っています。サーっというノイズが気になります。

A57. 0.4mV/100ohm初段回路の抵抗の熱雑音が大きいものと推定。初段アンプ→NF形RIAAイコライザー→LINEアンプ 初段のアンプの回路がS/Nに影響。R76,R77、R81,R82が大きいために熱雑音がかなり大きいと推測。

Q58. FURUTECHのホームページからWindows向けGT40 α専用ドライバーをダウンロードしたあと、PCにつなぎましたが、何度やってもデバイスを認識しない。「デバイスをインストールしています」の表示が出ることもありますが、途中まで進んで最終的にはエラーになる。PCのトラブルシューティングでは「FURUTECH ADL GT40 αのドライバーに問題ある未解決」と表示され使用することができない。使用して

いるPCはWindows10だがAnniversary UpdateやCreators Updateにアップデートはしていない。

A58. 本人の意思とは関係なく、自動でアップデートされている可能性があります。

Q59. レコードをリップングする際odbでするとフォノアンプでクリップしてしまい、-6dbで録るとかなり小さくなってしまいます。アッテネーターを-3dbに仕様を変えとかは難しいのでしょうか？

A59. 基本1オクターブあたりの減衰率を基準にしてdBで表しているため、周波数特性の傾きでの倍率となります。

つまり0 1/4(-6dB/oct) 1/8(-12dB/oct) 傾度となってしまうっており、ご希望の1/2への仕様変更は難しい状況です。

-6dBでリップングの際、録音ソフト側で入力ボリュームの調整を行って頂けますでしょうか。

Q60. リッピングソフト、「Audacity」をWindows8.1にダウンロードし、USB接続をしましたがGT40を認識しない。使用しているパソコンはLenovo。以前は認識をしてレコードの取り込み作業などをしていたのですが今回、PCがクラッシュしリカバリーを行いそれから繋がらなくなった。

A60. 考えられる原因としては、USBに問題があるか、インストールしているドライバー自体がリカバリー後認識できなくなっていることが原因。

- ・使用しているケーブルとは別のUSBケーブルを接続して症状を確認ください。
- ・現在のドライバーを一旦アンインストールし、再度ドライバーをインストールし直してみてください。

Q61. 「指定のファイル(ver.1.2.0)をDLLし、圧縮ファイルを解凍して実行させるとインストール画面に切り替わってから動かなくなる。PC上での表示コメント

- ・ インストールできません
- ・ Install driver fail. error code; 0x0,0x0
- ・ コンポーネントの1つがシステムにインストールされていません。ログファイルをチェックしてください。

使用PC:Windows10Home (64ビット) / ver. 1703

A61. Windows内にアップデート前のファイルで不足又は破損しているものが存在する場合、一部の機能や動作認識がうまく行われないということがよくある。また、NORTONなどのウイルスチェックによりインストールするはずのファイルの一部を削除されていることもたまにある。